



平成28年熊本地震発生

4月14日及び16日に発生した「平成28年熊本地震」による被害は、熊本県・大分県を中心に、長崎・宮崎・福岡・佐賀の各県にも被害の拡大が見られ、現在も余震が続いている状況となっています。

九州森林管理局では、この地震災害に対し、いち早く被災者への支援や被害状況の把握などを行いました。

地震への対応

九州森林管理局では、4月14日の地震発生直後に「地震情報連絡室」を局に設置、被害が想定される局署職員の安否確認を行いました。

15日には、局内に「九州森林管理局緊急自然災害対策本部」を設置し、局内の情報共有と今後の対策への対応を、現在も引き続き行っています。

地域への支援等

九州森林管理局では、今回の地震により被害が発生した地域への支援などを行っています。

○避難者受け入れ可能宿舎情報を提供

局より熊本県に対し、避難者の即対応可能受け入れ宿舎として、菊池市、人吉市の計3戸の情報を提供しました。

また、熊本県及び九州財務局に九州各県25戸の情報を提供しています。

○毛布や飲料水などの備蓄品を提供

近隣の避難所を含め、避難された方々に対し、毛布・飲料水・食料などを提供しました。

○局の大会議室と旧食堂を避難所として開放

4月14日深夜より局大会議室



避難者の方へ食料提供

を避難所として開放、近隣住民の方を受け入れ、16日には旧食堂も開放し、最大約250人の避難者の方々を受け入れました。

○近隣住民に対して物資提供

14日に避難所として局大会議室などを開放して以降、毛布や飲料水、食料などの物資を避難者の方々に提供しました。

また、物資の提供については隣接する避難所に対しても行っており、熊本県に対しては、被災者向けにブルーシートの提供も行いました。



近隣の避難所へ物資の提供



旧食堂を開放



大開会議室を開放

○食糧供給支援のため局職員を派遣

九州農政局の要請を受け、熊本本市東区役所へ避難所などへの食糧輸送支援のため、4月21日から26日まで局職員(延べ36人)を派遣しました。



輸送支援を行う職員

○罹災証明手続きの支援のため、局職員を派遣

被災者の方が公的支援を受けるために必要な、罹災証明書の手続き及び家屋被害認定調査業務の支援のため、29日より局職員4人をほぼ毎日合志市へ派遣しました。



認定調査業務を支援する職員

○避難所に、更衣室・パーティションを設置

避難生活を余儀なくされている方々の、プライバシー保護など生活環境の向上を図るため、熊本森林管理署の職員が考案した「国産材を使用した更衣室」の設計・組立図を熊本県庁対策本部および報道機関へ情報提供するとともに、避難所となっている南阿蘇村の白水中学校に1組、熊本市南区の火の君文化センターに2組設置しました。また、山都町の北浜館に九州式国産材合板パーティションを設置しました。



国産材を使用した更衣室



パーティションを設置する職員

被害状況の把握

九州森林管理局では、熊本県及び森林総合研究所と連携し、震度の大きかった地域を中心に、4月15日及び18日にヘリコプターによる上空からの被害状況調査を行いました。



ヘリコプター搭乗の状況

19日・20日には林野庁及び熊本県庁、森林総合研究所の専門家と合同で、阿蘇市、南阿蘇村の大規模崩壊地を調査、22日には林野庁と熊本県が合同で、南阿蘇村長野・河陽を現地調査しました。

また、25日から局森林土木技術職員2人を、現地調査協力のため熊本県へ派遣しており、民間連携して被害状況の把握を行うとともに、5月10日から12日まで、林道施設災害復旧に向けた現地指導のため、林野庁担当官1人を被害市町村に派遣しました。

なお、5月23日12時時点での林野関係被害状況は次のとおりで、現在も調査を継続中です。

〔林野関係被害〕

○林地被害
被害箇所数403箇所
被害額316億9千万円
(熊本県371箇所・福岡県1箇所・佐賀県1箇所・長崎県5箇所・大分県22箇所・宮崎県3箇所)を確認済み

○治山施設

被害箇所数36箇所
被害額26億7千万円
(熊本県31箇所・大分県5箇所)を確認済み

○林道関係

被害箇所数1654箇所
被害額10億3千万円
(熊本県112路線・佐賀県1路線・大分県10路線・宮崎県18路線)を確認済み

○木材加工施設など

被害箇所数22箇所
被害額7億3千万円
(熊本県17箇所・福岡県3箇所・大分県1箇所・宮崎県1箇所)を確認済み



被害状況(国有林)

救援物資の提供
ありがとうございました

今回の地震被害に対しまして、各方面より救援物資のご提供を頂きました。紙面を借りまして心よりお礼申し上げます。

- ☆一般社団法人熊本林業土木協会 会長 永野征四郎様
- ☆九州国有林採石協会 会長 中田博基様
- ☆九州国有林業生産協会 会長 横山久雄様
- ☆林道安全協会九州支部 支部長 山元一二様
- ☆福岡県森林土木建設業協会 会長 小西孝二様
- ☆日本森林技術協会 理事長 福田隆政様
- ☆東京都森林土木建設業協会 会長 榎森厚志様
- ☆新栄合板工業株式会社 代表取締役社長 尾崎公一様
- ☆大阪府木材連合会 会長 中村暢秀様
- ☆日本木材青壮年団体連合会 会長 越井潤様
- ☆ナイス株式会社 代表取締役社長 平田恒一郎様
- ☆ジオテクノス株式会社 代表取締役社長 吉川俊二様
- ※九州森林管理局把握分 (担当〓総務課)

治山・林道コンクール表彰式を開催

林野庁長官賞・九州森林管理局長賞 受賞者を表彰

平成27年度治山・林道コンクールの表彰式を4月7日、九州森林管理局において開きました。

このコンクールは事業効果の発現が顕著なものについて、実施要領に基づく取り組みテーマ（コスト縮減・技術提案・環境配慮）に合致した工事の中から、優良工事が選定され、工事内容が良好で他の模範に当たると判断された、治山工事3社、林道工事3社に対して九州森林管理局長表彰を行いました。



表彰式の様子

受賞者は次のとおりです。

☆林野庁長官賞

○桜島地区治山工事（古河良川）

《鹿児島署発注》

坂本建設株式会社

代表取締役 久木田純隆

○養野26林道新設工事《宮崎署

都城支署発注》

吉原建設株式会社

代表取締役 吉原政秀

☆九州森林管理局長賞

【治山工事の部】

○桜島地区治山工事（引の平上

流）《鹿児島署発注》

鮎川建設株式会社

代表取締役 鮎川利朗

○飯田河内山治山工事（関連溪）

《大分西部署発注》

大政建設株式会社

代表取締役 森山澄江

○猫岳治山工事《熊本署発注》

九州緑化施設株式会社

代表取締役 中村実敏

【林道工事の部】

○板子林道29支線新設工事《西

都児湯署発注》

株式会社仁科産業

代表取締役 仁科俊一郎

○立和名林道新設工事《鹿児島

署発注》

小牧建設株式会社

代表取締役 小牧隆



各賞を受賞された皆さん

○大篋柄林道改良工事《大隅署発注》

株式会社村田組

代表取締役 坂元祐次

【技術者等の部】

○桜島地区治山工事（古河良川）

主任技術者 下野俊博（坂本

建設株式会社）

監督職員 松田遙 鹿児島署

（現局治山課）

○養野26林道新設工事

現場代理人 黒木裕作（吉原

建設株式会社）

主任技術者 甲斐康暁（吉原

建設株式会社）

監督職員 谷口慎吾 宮崎署

都城支署

（担当）森林整備課

韓国訪問団を受入

【大隅森林管理署】3月29日、韓国から青松郡林業後継者団員20人が、鹿児島県垂水市のおおすみ自然休養林を訪れました。

当該地は猿ヶ城溪谷として有名な国有林のおおすみ自然休養林と、垂水市が管理する「森の駅」とが隣接しており、大隅地域の自然とのふれあいを求め地域の内外から多くの人が訪れています。

今回の訪問団は、椎茸や松茸などの林産物生産に従事する若手林業後継者であり、4日間の日程で鹿児島市の造園会社や日田市の木材協同組合等を訪問し、その一環として当地を訪れたものです。

当日は、垂水市の担当者から、「森の駅」は、2010年度から垂水市が直営で運営を開始し、16年度から市内の民間企業へ、管理業務を委託するという説明



猿ヶ城溪谷を散策

を受けました。

また、当署職員から、国有林や自然休養林の役割、スギ、ヒノキやカシ類、シイ類など日本の樹種の説明などを受けながら、「森の駅」の施設である古民家型のコテージの視察や、溪谷の散策などを行いました。

参加者からは、施設の利用料や使用状況、日本に生息する野草についての質問のほか、帰国後コテージを経営したいなどの感想が聞かれました。

垂水市では、インドネシアをはじめ海外からの視察も多く受け入れており、今後とも利用者に喜んでもらえるよう充実した休養林を目指すとともに引き続き垂水市と連携を図りながらPRに努めることを再確認しました。



青松郡林業後継者団員の皆さん

最優秀賞は「小春日和」 保全課

「花とみどりに囲まれた構内緑化コンクール」表彰式



最優秀賞「小春日和」 保全課

九州森林管理局では、昨年度に引き続き「花とみどりに囲まれた構内緑化コンクール」を行いました。

この取り組みは、庁舎周辺のスペースを活用して、局訪問者や地元住民の方々に明るく親しみやすい職場環境・気風の創造と、職員の結束を図ることを目的としたもので、今回が2回目となります。

庁舎周囲を9つに区画した花壇を、各課で花の種類や配置を企画・デザインし、昼休み時間などを利用して職員自らが植栽や手入れなどを行うもので、昨

年12月から取り組んできました。3月22日は12時30分から、庁舎玄関前でコンクールの審査結果発表が行われました。

審査委員長の洲上和之局長から「審査は、コンセプト、構成・バランス、創造性、アピールの4項目で採点を行いました。各花壇とも甲乙つけがたく審査は



表彰式の様子



優秀賞「里山の四季」技術普及課

困難を極めました。また、多くの職員が関心をもち、取り組みだことで、課内の結束がさらに高まったと思います。花の季節はまだ続くので引き続き手入れなどお願いします」と好評の後、結果の発表が行われ、入選した3課に表彰状が授与され、式を終了しました。



優秀賞「輝くFlower Star」治山課

なお、審査の結果は次のとおりです。
 ☆最優秀賞「小春日和」 保全課
 ☆優秀賞「里山の四季」 技術普及課
 ☆優秀賞「輝くFlower Star」 治山課
 (担当) 経理課・技術普及課

モニターの声



梅田 貴代士さん

約20年前、久しぶりに九州に帰ってきて「ん、山が姿ぞ。」
 と思って以来、山の事に少しず

つ携わって参りました。
 伐倒は勿論、研修参加、鹿・イノシシ等防止ネット張りなどをして、山の現状を僅かながら知ることができました。

「昔の方は、こんな山奥かつこんな急斜面によく植林されたものだ」と感心しております。

それが今では手入れがなされず、環境・防災・景観等の面で負の財産となり、また、鹿等の動物にとっては繁殖し易い環境で、これを防止する為に凄い経

不思議な縁でモニターに

モニターとなって更に知識を深め、次の世代に少しでも明るく引き継いでもらわなければと思ひ応募しました。

28年度モニター依頼状と広報

費・体力を使い、林業は危険・きつい作業で労働災害の発生率がトップである等、マイナスの言葉を並べると、きりが有りません。

九州3月号が送られてきて、感激と同時に驚きが…。なんと「第61回愛林駅伝・・・」の記事。中学時代走った記憶が甦りました。当時は大会の目的など

は耳を通り抜け、参加すること・走ることにしか頭になかったのに、この歳になって山に興味を持ち、自らモニターになろうと行動している自分に不思議な縁

を感じます。
 大会の目的「自然愛護・緑豊かなふるさと・・・」を、知らず知らずのうち目で・肌で感じていたのでしよう。だから今の行動になっているのではないかと思います。

今年度のモニターに参加して、微力ではありますが、次の世代に楽しく・希望を持って森林活動に携わってもらえるよう努力したいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。

(福岡県筑紫野市在住)

新任挨拶

どうぞよろしく

平成28年4月1日付の異動により、新しいポストに就かれた次長（業務管理官）・1人の課長・5人の森林管理署長をご紹介します。

次長 （業務管理官）



中村 道人
なかむら みちと

年齢 53歳
出身地 岩手県
前職 中部局森林整備部長
抱負 大分西部署勤務以来、15年ぶりの九州局勤務になります。林業・木材産業を取り巻く状況は明らかに潮目が変わっています。国有林の事業を通じ、民有林・国有林共通の課題に正面から立ち向かい、常にトップランナーとして、全国の林業・木材産業を牽引していけるよう頑張ります。

資源活用課長



西 栄二
にし えいじ

九州での勤務は初めてとなりま
す。日本林業のトップランナー
として邁進する九州の一員とし
て、民国連携の下、果敢に取り
組みたいと思います。また、海
岸の松林や都市近郊森林の適切
な保全管理も大きな課題です。
これらの取り組みに不可欠な安
全・健康で風通しの良い職場環
境を率先して作りたいたと考え
ています。

佐賀森林管理署長



川部 静也
かわべ しずや

年齢 57歳
出身地 福岡県
抱負 一般会計で事業を進め
てきて3年が経過し、国有林と
しての役割が強く問われている
ことを感じています。森林蓄積
も成熟期となり木材の供給は当
然のことですが、いかに伐採か
ら造林までの一貫作業を低コス
トで進めるかなどに取り組んで
いきたいと考えています。また、
佐賀県、20の自治体の民有林が
抱えている課題は何かをよく聞
き、一緒に話し合いながら少し
でも貢献できるように行動してい
きたいと考えます。まずは、県

熊本森林管理署長



森 勇二
もり ゆうじ

ご当局・各首長様のところへあ
ししげく通い、佐賀県の林業を
教えていただき所存です。よろ
しくご指導をお願いいたします。

年齢 57歳
出身地 宮崎県
抱負 4月14、16日、熊本地
震により甚大な被害が発生した
ところであり、被災された皆さ
ま方に心からお見舞い申し上げ
ます。地域の安全・安心を確保
するため早期復旧を目指すこと
もに、引き続き民有林と連携し
ながら国有林の役割を果たすべ
く地域貢献できるよう、心身と
もに健康で災害のない明るい職
場づくりに全力で取り組んで参
りますのでよろしくお願いま
す。

北薩森林管理署長



前田 三文
まえだ みふみ

年齢 58歳
出身地 宮崎県
抱負 管内を流れる川内川は、
九州第2の河川で、管内国有林
の多くはその支流上流域に分布
します。川内川は伊佐市出身の
小説家、海音寺潮五郎氏の「二
本の銀杏」の舞台としても有名
です。川内川と深く関わる北薩
地域の生活や文化を学び、地域
に根ざした国有林として職務に
励みたいと考えております。よ
ろしくお願いたします。

福岡森林管理署長



安永 正治
やすなが まさはる

年齢 56歳
出身地 福岡県
抱負 34年ぶりの出身地福岡、

宮崎森林管理署長



鈴木 正勝
すずき まさかつ

年齢 56歳
出身地 福岡県
抱負 34年ぶりの出身地福岡、

5年生に森林教室

【宮崎森林管理署】宮崎森林管理署では、宮崎市穂（あおき）振興会と合同で、宮崎市立潮見小学校5年生123人を対象に「森林教室」を行いました。

教室では、職員が森林の役割や大切さなどをクイズ形式で質問すると、生徒は目をキラキラさせながら答えていました。

その後は、職員指導の下、生徒全員でヒノキの枝を利用したキーホルダー「もっくん」の製作や、鋸を使って約10センチの丸太切りに挑戦しました。

約2時間のイベントでしたが、生徒たちは終始、笑顔で楽しそうに取り組んでいました。

生徒たちにとって今回は、森林の話聞き、直接木に触れる貴重な機会となりました。



元気に手を上げる小学生

ヤンバルクイナ事故防止 キャンペーンへ参加



クリアファイルを配布する職員

【沖縄森林管理署】5月3日、沖縄本島北部の国頭村奥ヤンバルの里において開かれた「奥ヤンバル鯉のほり祭り」の中で「ヤンバルクイナ交通事故防止キャンペーン（やんばる地域ロードキル発生防止に関する連絡協議会主催）」を行い、沖縄森林管理署からも4人の職員が参加しました。

沖縄本島北部では、5月頃からヤンバルクイナをはじめとする希少野生動物の出現頻度が増加し、毎年多くの希少野生動物が交通事故で死傷しています。2015年度は37件の交通事故が発生し、前年度より減少しているものの依然として多い状

況が続いています。このような状況を少しでも緩和すべく連絡協議会に参加する各団体が連携し、ロードキル防止を呼びかけるリーフレットをヤンバルクイナやケナガネズミ等がプリントされたクリアファイルに入れて配布し、注意喚起を行いました。

当日は大型連休期間中でもあり、地域内外から多くの来場者で賑わい、より多くの方々にやんばる地域のロードキル発生防止について普及啓発することができました。

菊池渓谷で山開き

【熊本森林管理署】4月8日、くまもと自然休養林菊池水源地区の菊池渓谷で山開きが行われ、菊池渓谷を美しくする保護管理協議会をはじめ関係者約100人が出席する中、今シーズンの無事故を祈願しました。

神事後、森勇二署長が森林が多く公益的機能を発揮していることや菊池渓谷の美しい景観などについて挨拶を行いました。最後の関係者によるテープカット



テープカットを行う洲上局長

ト式典では、洲上和之九州森林管理局長がテープカットを行い、菊池渓谷の今シーズンの幕開けを祝いました。

平成28年度 山地災害防止キャンペーン

林野庁では、平成28年5月20日から6月30日までの期間、「山地災害に備える」を合い言葉に、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。

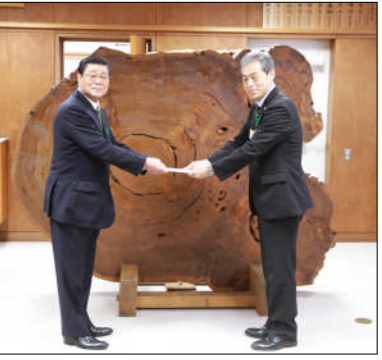
九州森林管理局においては、この期間中、地域住民の皆様の防災意識の高揚に資することを目的として、関係機関や地域住民の皆様などのご理解・ご協力を得ながら、山地災害危険地区の周知やパトロールなどを実施しています。（担当＝治山課）



平成28年度 山地災害防止キャンペーン
 期間 5月20日(金)～6月30日(木)
 主催 林野庁/都道府県/市町村
 協賛 (一社)日本治山水協会

みどりの募金を贈呈

4月8日、九州森林管理局において、「緑の募金全国一斉強調月間」に先駆け、(社)熊本林業土木協会会長永野征四郎氏より、九州森林管理局長洲上和之へ緑の募金贈呈が行われました。



永野会長より洲上局長へ
緑の募金贈呈

また、(社)熊本林業土木協会からは毎年募金の贈呈が行われており、局内の募金とあわせて国土緑化推進機構及び熊本市地域緑化推進協議会に送られ、全国の森林整備や緑化推進事業に活用されています。

(担当)技術普及課

森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】当署会議室において、熊本県南広域本部球磨地域振興局と当署の主催で「山の日」制定記念「森を身近に！森のセミナー」を開き、約20人が参加しました。

はじめに、当署による希少野生動物の保護活動についての取り組みや、同振興局による熊本県の野生動物の現状と対応などについて講演を行いました。

続いて、環境省希少野生動物植物種保存推進員の乙益正隆先生から今年の干支である「甲」にちなんだ草木話」と題してサルトリイバラと生活とのかかわりや各地での方言等についての説明や、シカの被害により減少した植物や絶滅植物等、人吉・球磨地方の植物をパワーポイントを使いわかりやすく説明した。



説明に耳を傾ける参加者

だき、参加者は熱心にメモをとっていました。

また、会場には、乙益先生のシダ20鉢とカワセミなどの写真パネルを展示、参加者は乙益先生の説明に耳を傾けながらシダや写真を観察するなど大変有意義なセミナーとなりました。

トウチクの根絶を目指して

【大隅森林管理署】5月23日、枇榔島においてトウチクの繁茂調査及び駆除作業を実施しました。

枇榔島は鹿児島県志布志市の東方約4kmに位置する、面積17・8haの無人島で、ほぼ全域が国有林であり、生育する亜熱帯性植物群落は特別天然記念物にも指定されています。

この島で外来植物のトウチクが確認されるようになったため、当署では2016年度から県や

市とともに、毎年2回の繁茂調査及び駆除作業を行っており、今回は署、文化庁、環境省、県市の職員など総勢11人で作業を行いました。

現地では、文化庁の寺田氏からトウチクの特徴や繁茂している箇所の説明を受けた後に作業を開始し、約2時間で66本を確認・除去しました。

作業を始めた10年前には、根元径8cm、樹高10数mほどの個体がありました。今回は根元径1cm樹高1m程度のものがほとんどでした。

また、昨年11月調査時の100本に比べて3分の2程度まで減少しており、トウチクが確実に衰退していることが確認できました。

最後に、全員で今後も継続的な調査を行いトウチクの根絶を目指すことを確認して作業を終了しました。



除去作業を行う参加者

古事の森で作業に汗

【沖縄森林管理署】5月24日、首里城古事の森育成協議会主催により、東村平良国有林1林班内において、協議会構成員や森林ボランティアおきなわなど39人が参加し、下刈作業及び施肥作業を行いました。



下刈作業に汗を流す参加者

当協議会は、2008年度より国有林において、沖縄の「木の文化」を象徴する首里城の修復等に必要木材を供給する首里城古事の森づくり活動を地域社会の協力を得て実施しています。

当日は、炎天下のなか汗だくになりながら、植栽木が大きく成長し首里城の修復に利用されることを願いつつ無事に作業終了しました。

なお、11月には2回目の下刈作業などを予定しており、併せて森林教室を実施することとしています。

心の健康づくりで明るく健康な職場へ

「職場のメンタルヘルスについて」講話

5月30日、局大会議室において、桜が丘病院より精神保健福祉士原田健一氏と作業療法士中村文香氏を講師に招き、「職場のメンタルヘルスについて」と題した心の健康づくりの講話を開きました。

この講話は、例年署長等会議にあわせ行っており、局職員及び各署長、各センター所長など多数の職員が参加しました。

講話では、職場のメンタルヘルスの取り組みやストレス対応についての講義に加え、リラクゼーション法についての実践も行いました。

始めに原田講師から、労働者のこころの健康をめぐる状況について、ストレスの内容や患者数の推移など現在の状況の話の



講話を聞く職員



講師の
原田先生

後、職場でのメンタルヘルスの重要性、行政の取り組みとして労働安全衛生法の改正による、ストレスチェック制度の創設などについてわかりやすく話していただきました。

次に、ストレスについてのメカニズム、ストレス反応、個別



都会の中の憩いの森
多様な植物

ナラガシワは立田山、久住高原などで普通に観察される樹木です。名前は、ナラ（コナラ）とカシワの名前がドッキングしているように、鋸歯、柄の長さ（葉身に対する長さ）がコナラとカシワの間にあることからこの名前が付いています。

葉は、やや厚く革質で互生、表面は始め毛がありますがやがて無毛となり、裏面は星生毛が密布して灰白色に見えます。

冬芽は芽鱗があり、長楕円形、鋭頭、鱗片は十字対生です。冬芽は冬でなくとも付いています

の対応、管理職の対応などについて、今回の地震による事例を含めて講話いただきました。

中村講師からは、リラクゼーション法についての話の後、呼吸法や筋弛緩法によるリラクゼーションの実践をおこないました。職員は、講師の指導のもと、ゆっくりとした呼吸や、筋肉を緊張させたり緩めたりした動作を行い、リラクゼーションした状態を体感していました。



講師の
中村先生

103

ナラガシワ (ブナ科)

のでいつでも観察できます。

ナラガシワには明らかに柄を確認できませんが、カシワは大変短くて柄を確認するのがやっかいです。柄を確認することによって判別できます。

ドングリは大きく楕円形をしています。ドングリ拾いは立田山の秋の森から北に進んだ森でできますが、わずかしが落ちていませんで時期を見ていくことが肝要です。

樹木園の東にカシワ、コナラ、ナラガシワが並ぶようにしてありますので比較観察ができます。



今回の講話が、職員皆さんの「心の健康づくり」に役立つとともに、明るく健康な職場づくりの一助になれば幸いです。

また、「心の健康づくり」に役立つ話題については、今後も機会をとらえ提供していきたいと考えています。

(担当)総務課

◇退職◇
ご苦労さまでした

◇定員内職員◇・・・2人

4月30日付森林管理局长発令

原口梨沙 (総務課)

長友清文 (熊本南部署)

(担当)総務課



自宅で食事を終え、さあゆっくりしようかと思っていたら、ドンクラグラグラときた、あわてて近くの物が落ちないように押さえたまま体が固まった、4月14日の前震である▼16日の本震は局で泊まりの時、こちらも机やコピー機など飛び跳ねるような揺れで、机の下に避難することも忘れ、身動きも出来なかった▼「熊本地震」はこれまでに経験したことのない激しい揺れにより、熊本・大分県に限らず他県でも大きな被害が発生した▼この文章を書いている時点では、熊本県内での地震による死者は49人、関連死は20人、行方不明の方が1人となっております、今でも避難されている方が多数いる▼すでに地震発生が2ヶ月が過ぎているが、いまだに余震が毎日発生しており、地震発生から余震を含めると1800回を超える地震が発生している▼いつ終わるともわからない地震に、避難されている方、対応に追われる自治体の職員の方のストレスは、計り知れないものがあると思うが、地震からの復興に向けて「かんぽろう一九州」

(も)